

説明文を読むこと

名前

学習日

ポイント

○説明文を読み、内容や筆者の考えをとらえましょう。

問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昨今ではあまりなじみのないものになってしまっているかもしれないが、わが国では、昔から正月明けの一月七日に、いわゆる春の七草を入れて炊いた七草がゆを食べる習慣がある。

春の七草とは、せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろのことを指す。秋の七草というのものもあるが、こちらはすすきなどの、見て楽しむ野草である。春の七草は、七つともすべて食べられる。そして、正月料理の時期もそろそろ終わりとなるころに、それら春の七草を入れたおかゆを食べれば、その年は病気が知らずで健康に過ごせると言われているのである。

一見、迷信のようでもあるが、<sup>①</sup>これには実は科学的な根拠もあると言われている。<sup>①</sup>七草とは、古くは薬草としても用いられていたほど、薬効成分が豊富にふくまれているものである。七草には、食物の消化の促進や、利尿、増血といった、さまざまな作用があるとされているのである。

さらに、<sup>②</sup>それらを、胃にやさしいおかゆにして食べることで、正月中に飲み食いして無理がたたった体を、内側から温かくいやすことができる食べ物でもあるのだ。要するに、七草がゆとは、お腹にやさしいおかゆを食べるだけで、お正月の間の不摂生を一気に解消してしまおうという、昔の日本人の知恵が生んだ食べ物であるというわけである。<sup>②</sup>冒頭にも書いたように、これが最近では、なじみのうすいものになってきているように思われる。現代のような飽食の時代にあっては、このような質素な食べ物が消えていくのも当然のこと、いたしかたないことなのかもしれない。ただ、どこかもったいなく、さびしい気もしてくる。きたる正月には、古き良き食文化の一角をなす、この七草がゆを食してみてはいかがだろうか。

七草がゆを作るにあたって、もし七草が手に入らなければ、葉物の野菜で代用することもある。そもそも、すずなどは野菜のカブの葉のことで、すずしろとは大根の葉のことである。また、最近では、スーパードなどでパック入りの七草を買うこともでき

説明文を読むこと

名前

学習日

る。そういうものを利用すれば、現代でも手軽に七草がゆを作ることができる。

知る人に習って七草がゆを煮て、温かな一さじを口にふくんでみれば、昔ながらのささやかで滋味深い味わいが、現代に生きる我々をもきつと変わらずにいやしてくれることだろう。

(1) — 線①「これ」とは、どういうことを指していますか。書いて答えなさい。

(2) ①・②にあてはまるふさわしいことばを、次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア だから      イ しかし      ウ すなわち

エ あるいは      オ さて

①	
②	

(3) — 線②「それら」とは、何を指していますか。本文中から、五字以内で書きぬいて答えなさい。


(4) 本文から読みとれる筆者の考えとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 秋の七草は食べられないが、春の七草は、どれもみなせっかく食べられる野草なので、これを食べない手はなく、ぜひ時期がきたら面倒くさがらずに七草がゆを煮て、食べられる野草はきっちりと残さず食べておいてほしい。

イ 春の七草は、昔から薬草とされてきたほど体に良い物であって、不摂生をしたリ栄養がかたよったりしがちな現代人にとっては、七草がゆはまさに体調を整えるのにうってつけの食べ物なので、ぜひ多くの人に食べてほしい。

ウ 七草がゆのような質素な食べ物は、現代のような飽食の時代にあってはあまりなじみがなくなってしまうのもやむをえないのかもしれないが、昔の日本人の知恵が生んだすばらしいものなので、いまの人たちにも作って食べてみてほしい。

エ 七草がゆを作ろうにも、現代では春の七草などなかなか手に入るものではなく、多くの人が野菜で代用したり、パック入りのものなどを安易に使ったりしがちだが、ぜひ一度はきちんと春の七草をとりそろえて作ったものを食べてほしい。

説明文を読むこと

問題

解答	アドバイス
<p>◆</p> <p>(1) (れい) 春の七草を入れたおかゆを食べれば、その年は病氣知らずで健康に過ごせるということ。</p> <p>(2) ① ウ</p> <p>② イ</p> <p>(3) 春の七草</p> <p>(4) ウ</p>	<p>◆</p> <p>(1) 「一見、迷信のようでもある（が、そうと言われていくこと）」の内容を、直前に書かれていることからまとめます。</p> <p>(3) 傍線部<small>ほうせんぶ</small>をふくむ「それらを、胃にやさしいおかゆにして食べることで、正月中に飲み食いして無理がたたった体を、内側から温かくいやすことができる食べ物」とは、七草がゆのことです。ですから、「それら」にあたる「おかゆにして食べる」ものとは、春の七草ということになります。</p> <p>(4) 「現代のような飽食<small>ほうしょく</small>の時代にあっては、このような質素な食べ物が消えていくのも当然のこと、いたしかたないことなのかもしれない。ただ、どこかもつたいなく、さびしい気もしてくる。きたる正月には、古き良き食文化の一角をなす、この七草がゆを食してみてはいかがだろうか」という部分が、ウの内容と合っています。</p>